

令和5年度事業報告

法人本部

- 義肢装具士養成校より実習生1名を受け入れ学習機会の提供を図りました。
- 職員をオンデマンド形式の研修会や講習会に積極的に参加させ、資質向上を図りました。
- ハイブリッド型のテレワークを積極的に活用させ、職員の負担を軽減させました。
- 補装具の一部を基準価格の半額程度で提供したほか、補装具の無償貸し出しや、無償メンテナンス、無償修理など地域貢献事業を積極的に展開しました。
- 令和5年12月17日に理事長を石原信市郎から古市三久に変更しました。
- 監事の入れ替えがあり、田畠誠司さんが新任で監事に就任しました。
- 能登沖地震に際し、石川県からの要請を受け、リクライニング・ティルト式車椅子1台を寄贈しました。
- 車両に突発的な故障が相次ぎ、入れ替え台数が5台となりました。
- 最低賃金との関係があり、年度途中での昇給が発生しました。
- 事業活動収入は2億249万1003円を数えましたが、事業活動支出が2億851万6754円となり602万5751円の赤字収支となりました。
- 施設整備に係る収支、その他の活動に係る収支を含め法人全体の収支はマイナスすることの253万4347円でした。
- 社会福祉充実残額は発生しませんでした。

業務部

- 新卒職員を採用できなかつたため、年間を通じ業務の展開に負

担が生じました。

- コロナウイルス感染拡大の影響のため、定期訪問だけではなく、各種施設訪問や自宅訪問など、年間を通じスケジュール調整に苦慮しました。
- 施設のケースワーカー、ソーシャルワーカーなどとも連携を図り、退院時の帰宅環境整備に大きく貢献しました。
- 各地の居宅介護支援センターと連携を図り、在宅案件の強化を図りました。

福島工場

- オリジナルサポーターや装具の開発・研究を行いました。
- 年間を通じ、材料費の値下げ交渉を実施し、値下げ交渉に成功した案件もありました。
- 主力製品である軟性コルセットの一部を、試験的に外注しました。

以上